

IX 地球温暖化

1 地球温暖化の概要

地球は、太陽光が地表面に届くことによって暖められています。同時に、その暖められた地表面の熱を、宇宙空間に放出することによって冷やされています。そして、地球の大気中には、二酸化炭素（ CO_2 ）やメタン（ CH_4 ）等の熱を吸収する気体（温室効果ガス）が含まれており、温室効果ガスが、地球の熱の吸収と放出のバランスを適度に保つことにより、長い間、地球の気温は、我々人類や野生生物にとって暮らしやすい温度に保たれてきました。

しかし、18世紀半ばに始まった産業革命以降、石炭、石油等の化石燃料の大量消費等により、大気中の温室効果ガス濃度は、急激に上昇しました。これにより、地表面から放出される熱が、宇宙空間へ逃がされることなく大気中にとどまりやすくなり、その結果、地球の平均気温が上昇しています。これが、地球温暖化です。

地球温暖化が進行すると、気候システムのバランスが崩れて、異常気象の頻発、極地及び高山地の氷の融解による海面上昇等を引き起こすと予測され、人類の生活環境や自然の生態系に深刻な影響が生じるおそれがあると言われています。



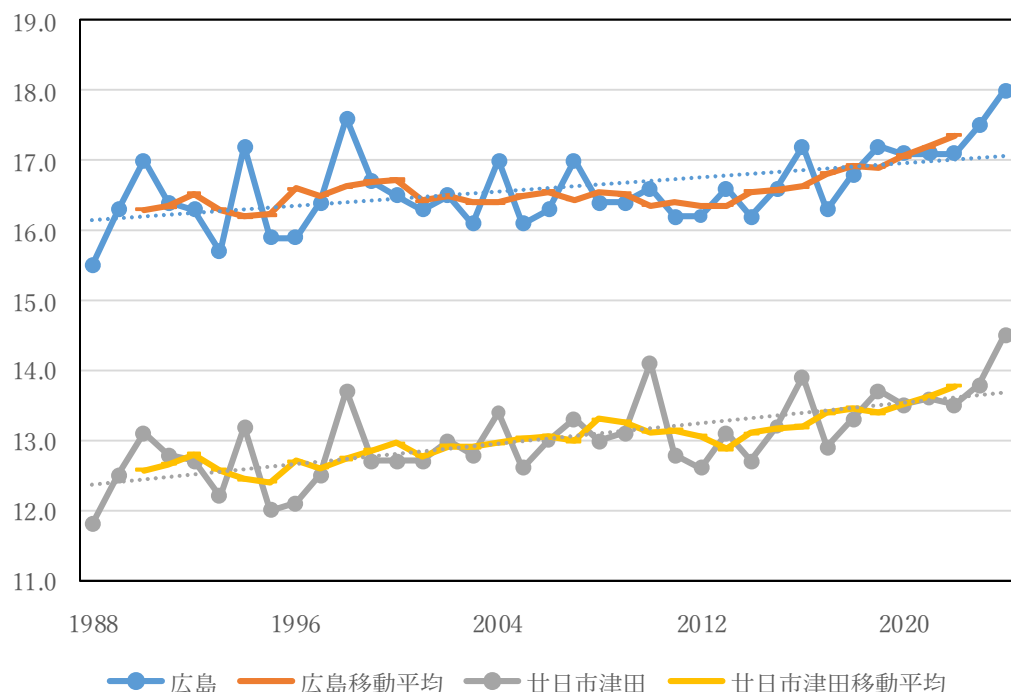
（図Ⅸ－１） 温室効果の模式図（気象庁ウェブサイトより）

2 廿日市市の現状

廿日市市には、気象庁による廿日市津田観測所が設置されており、気温、降水量等の観測が行われています。廿日市津田観測所及び隣接する広島市に設置されている広島観測所における年平均気温の推移は、（図Ⅸ－２）のとおりです。図には、毎年の観測値に加え、変動傾向をわかりやすくするため、5年ごとの移動平均値も示しています。

廿日市津田観測所の移動平均気温の推移を見ると、1988年から2024年までの間で、約1℃上昇しています。また、広島観測所でも、同じ期間で、約1℃上昇しており、地球温暖化の傾向は、本市周辺においても、確認することができます。

Ⅸ 地球温暖化



(図Ⅸ－２) 広島及び廿日市津田における年平均気温の推移

廿日市市における２０２２年度の二酸化炭素排出量は、１，０８８千ｔ－ＣＯ_２と推計され、２０１３年度比で２３．６％減少しています（表Ⅸ－１）。

部門別の内訳では、産業部門の二酸化炭素排出量が５０３千ｔ－ＣＯ_２と最も多く、全体の構成比では４６．２％を占めています。以下、運輸部門、家庭部門、業務その他部門と続いています。

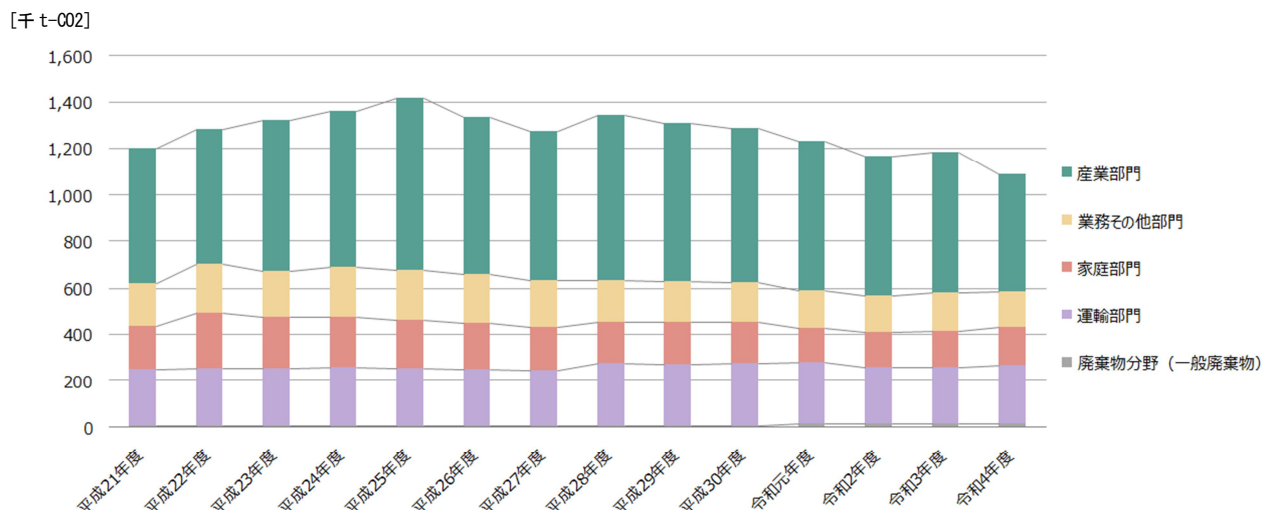
部門別の増減率を見ると、産業部門が３２．１％と最も大きく減少しています。

(表Ⅸ－１) 廿日市市の部門別二酸化炭素排出量の現況推計

(単位：千ｔ－ＣＯ_２)

分 類	２０１３年度	２０２２年度	増減率
産業部門	741	503	▲32.1 %
運輸部門	248	250	0.8 %
業務その他部門	213	156	▲26.8 %
家庭部門	208	166	▲20.2 %
一般廃棄物	15	14	▲ 6.7 %
合 計	1,425	1,088	▲23.6 %

(資料：自治体排出量カルテ（環境省）)



(図IX-3) 部門・分野別の二酸化炭素排出量の経年変化
(資料：自治体排出量カルテ (環境省))

3 廿日市市の取り組み

本市においては、2022年6月9日、松本太郎市長が、市議会本会議で、廿日市市環境基本計画に掲げる将来像「海と緑と人が育む環境創造都市はつかいち」の実現に向け、市民、事業者、行政の「オールはつかいち」で「2050年カーボンニュートラル」を目指す「ゼロカーボンシティ」に挑戦することを宣言しました。2023年4月には、全島が瀬戸内海国立公園である宮島を環境省の「ゼロカーボンパーク」に登録し、持続可能な観光地の実現に向けた検討を始めました。2024年3月には、「廿日市市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)」を新たに策定し、市域の二酸化炭素排出量を2030年度には2013年度比で51%削減、2050年度にはカーボンニュートラルの達成を目標として定めました。



写真 ゼロカーボンシティ宣言について記者会見を行う松本市長

地球温暖化の問題は、私たちの生活や事業活動と密接に関わっており、すべての市民や事業者、市が協力して「オールはつかいち」で取り組む必要があります。

2050年カーボンニュートラルの目標を達成するためには、市民、事業者、市のそれぞれが、現在の状況を認識し、市民生活や事業活動の中で、環境負荷の少ない持続可能なまちづくりを積極的に進めていく必要があります。

※ 本章（Ⅸ 地球温暖化）では、原典等において、西暦表示が多用されているため、年号の表記を西暦で行っています。